

夢を育て、力をあわせてはばたこう！

2011年 12月 15日発行

NO. 45

カ ム ニ テ ィ ー

翔 夢 nity

特定非営利活動法人
『翔夢』

<http://www.npo-cam.jp/>

e-mail: nandemosoudan@npo-cam.jp



特定非営利活動法人 翔 夢 法人本部 大阪市平野区平野南3-8-16

【事務局】

大阪市平野区长吉長原1-12-20
TEL (06) 6760-6167

長吉第1施設

障がい者ふれあい交流センター
大阪市平野区长吉長原2-14-15

相談支援事業 ホープネット
TEL (06) 6760-6161

地域活動支援センター ハートネット
TEL (06) 6760-5343

生活介護事業 ジョイネット長吉第2
TEL (06) 6760-6250

PC事業部

TEL (06) 6760-6210

長吉第2施設

障がい者ふれあい交流センター 第2
大阪市平野区长吉長原2-11-8

生活介護事業 ジョイネット
TEL (06) 6155-9901

長吉第3施設

障がい者ふれあい交流センター
大阪市平野区长吉長原1-12-20

就労継続支援(B型)事業 ドリームネット
TEL (06) 6760-6181

障がい者ふれあい交流センター つるみ支所
大阪市鶴見区浜4-18-7

就労継続支援(B型)事業 ワークネットつるみ
TEL (06) 6912-7333

ご協力のおねがい

NPO法人「翔夢」では、アルミ缶のリサイクル活動も行っております。近隣ならばお伺いいたしますので、ご協力をお願いいたします。

ご連絡は下記へ。

ハートネット

TEL (06)

6760-5343



翔夢Nity. 45 もくじ

- P1..... 表紙
- P2..... 厨房より・お知らせ
- P3..... 障がいを知ろう
- P4..... スポーツ大会
- P5..... つるみレクリエーション
- P6..... メンバー紹介
- P7..... 就労部会の取り組み
- P8..... 翔夢の相談日記

表紙の写真は、スポーツ大会の玉入れです。

厨房からのお便り

すっかり冬になりました。まだまだ寒くなりそうですね。今月はお味噌を使い身体を温めましょう。味噌煮込みうどんをご紹介します。是非、この冬に作ってみてください。

【作り方】

- ① Aの全材料を合わせ、だしをつくる。器は、保管庫で保温しておく。
*10分弱火にかけ、味をなじませる。
カットした豚肉は、熱湯で、サッとしもふりし素早く洗い水気をきる。
- ② カットした白菜・しめじ・薄揚げ・人参・豚バラスライスをそれぞれ順番に、合わせだしで煮てから保管庫で保温しておく。
- ③ 具材の旨味が出た、②の残りの出しでうどんを10分間煮込む。
- ④ 保温しておいた器に熱々の煮込み麺・だしを入れ、具材をのせる。
*1人前 出し300cc

賛助会員入会のお願い

「翔夢」の活動をご理解いただき、賛助会員に入会をお願いいたします。

募金・賛助会費振込先

郵便振替

口座番号 00980-8-317336

口座名称 特定非営利活動法人 翔夢

三菱東京UFJ銀行 平野南口支店

口座番号 普通 4636394

口座名称 特定非営利活動法人 翔夢

茹でうどん麺	150.0 g
白菜	50.0 g
しめじ	25.0 g
青ねぎ	15.0 g
水菜	25.0 g
薄揚げ	0.3 枚
人参	10.0 g
豚バラスライス肉	40.0 g
かつお出し	275.0 cc
酒	6.3 cc
濃い口醤油	0.5 cc
赤味噌	6.0 cc
合わせ味噌	6.0 g
みりん	3.0 g
砂糖	1.0 g
ほんだし	1.3 g

障がいを知ろう

知的障がい (その二)

前回に定義した知的障がいですが、歴史的にどのような扱われてきたのであろうか、近代以降の話を福祉、教育、生活の面で総括的に述べていきたいと思う。

我が国において、知的障がい児への教育が取り組まれてこられたのは、明治の末期になり民間からの運動がおこったためである。しかし、この時期は行政的な運動には繋がらず、社会的にも家族が見るのが当然である状態であった。また、この時期は世界的には帝国主義的政策が大勢であり、日本もその影響を受け、行政的には知的障がい児を保護するという立場から、

社会防衛的に扱う方向へと変化することとなる。この流れが、国民優生法となり、戦時下における断種・隔離政策へと繋がっていくこととなる。

戦後の福祉は、戦争により身体障がいとなった軍人対策として始まった。知的障害に関しては、児童福祉法の一部として例外的に施策が始まることとなり、成人となった知的障害には行政的対策の無いままの状態がしばらく続くこととなる。

この流れが変わったのが、一九五二年に設立された知的障害者の親の団体である「全国精神薄弱児育成会」(のちの全日本手をつなぐ育成会)

の結成である。この運動が、精神薄弱者援護施設の設置や精神薄弱者福祉法(現行の知的障害者福祉法)へと繋がることとなる。ただ、この時点では、知的障がいのあるものを施設に入所させ、指導訓練し、自立更生させることが行政の主眼であった。

このような状態から「在宅福祉」へと運動の舵を切ったのもまた、知的障がいを持つものの親の運動からであった。学校を卒業しても行き場の無い知的障がい児の居場所を作るため、共同作業所を作ると言う運動が進んでいくこととなるのである。一九六〇年代終わりごろから一九七〇年初め頃の事である。国が在宅福祉へと政策を変更したのは一九七〇年代後半である

が、政策が変更されたのは、障がい者の事を思ったからではなく、石油ショックによる

財政不足からであった。そのうえ、この場合の在宅福祉は、親元に住むことを前提としたものであり、単なる施設福祉の切り捨てであった。

以上のように親主導で始まった知的障がい児・者の福祉であるが、これが質的な転換として、障がい当事者からの声が上がるようになってきたのが、一九九〇年代からの福祉である。ここで明確に脱・施設を目指す福祉が当事者から提唱され、障害者の「地域福祉」が始まることとなるのである。

今回は、知的障害と関係の深い障がいと、現状の支援について触れていくことにします。

※今回は歴史的問題を扱っている為、不適切な表現がありますが、ご了承ください。

(六車)

第3回 翔夢スポーツ大会

十月二十七日に、「スポーツ大会」が行われました。当日は天気にも恵まれ、スポーツ大会日和でした。

開会式では、各施設代表で選手宣誓が行われました。第二施設代表のOさんを筆頭に、文章を一区切りずつ宣誓しました。宣誓後はグラウンドにいた参加者全員から拍手喝采され、とても凛々しかったです。

ティーバッティングは、得点ラインが十次の次が五十点だったり、間にアウトがあったり、得点ラインがバラバラだったため、出場者は百点ゾーンに入るよう、打ち方に工夫をこらしていました。サッカーボウリングは、倒



したピンの合計数で競います。ピンは平野特別支援学校さんからお借りした、手作り風が吹くと倒れてしまうぐらいの特大的ピンで、風を味方につけて、多くのピンを取られたメンバーさんもおられました。中には、強く蹴りすぎてピンを超えてしまったり、たくさんのピンが倒れて「やったー!」と手を挙げるメンバーさんもおられました。

パン食い競争は、皆さん欲しいパンめがけて一直線。しかし、ビニールに入ったパンを口で取るのは至難の業。中には口で取ろうとしている方のパンを横から手で取ってしまった方もいました。

三十メートル走計測と浮き玉遠投計測は、参加者の皆さんは真剣そのもの。クラッチングスタートで始める方や、途中で靴が脱げた方や、歩行器や車いす・杖を使ってゴールまで目指した方、フェ

ンスにぶつかるといふ大記録が出たりしました。

ストラックアウトは、第二施設・ワークネットつるみチームが瞬間にボールを当たっていき、高得点を稼ぎました。

各施設の管理責任者による職員競技は、バットでぐるぐるまわり、縄跳びをし、粉の中にある飴を口でつかんでゴールするというものです。男性職員はぐるぐるバットでふらついたり、縄跳びを遠いところまで投げられたり、

ゴール後にズボンをずらされたり、散々な目にあい、メンバーさんは大爆笑していました。

最後は全員参加の玉入れ。スタートの合図と同時にこれぞと言わなければに玉が籠へむかって投げられていました。

そして閉会式、優勝は第一施設・第三施設混合チーム。発表を聞いた瞬間、勝利の雄叫びをあげられた方もいました。そして、理事長より各チームの応援の採点があり、これによって、優勝がかわる



かもしれないとのことでしたが、見事に各チーム同点。結果は変わらずでした。

次の日にメンバーさんに感想を聞くと、「とても楽しかった」や「もっと運動したいといけないな」、「他の施設のメンバーさんとも交流が持てて良かった」などがありました。日ごろ施設内で作業や日中活動をさせていて、中々外で体を動かす機会が持てない方が多いようです。その中でこのスポーツ大会は、身体を動かす絶好の機会でもあります。また、このスポーツ大会の中で様々な活躍をされたメンバーさんもおられ、その活躍をご家族様にも見て頂けるようになれば少しでも、励みになるかと思えます。今後のレクリエーションもご家族様や会員の皆様のご協力を頂きながら、よりよいものにしければと考えています。

(中森)

ワークネットつるみ レクリエーション

鶴見緑地でバーベキュー

十月頃からワークネットつるみのメンバーと、十一月のレクリエーションは何が良いかと話し合いました。話し合った結果、十一月のレクリエーションはバーベキューをすることに決まりました。

する日が十一月十六日に決まったので、当日までにいろいろ準備をしました。メンバーと職員さんで鶴見緑地公園内にあるバーベキュー会場に予約の電話もしました。職員さんと一緒に近所のスーパーに買い物にも行きました。買った物では何をどれだけ買ったらいいのか初めての事ばかりだったので大変でした。

最初はつるみのメンバーだけでバーベキューをやる予定だったので、八日ごろに職員さんの方から平野のメンバーもバーベキューに参加したがっていることを言われて、担当である僕とNさんの二人だけでは決められないので次の日にメンバーに相談をしました。みんなも「いいよ」と言ってくれてよかったです。

当日、十時ごろにつるみのメンバーはワークネットつるみを出発して歩いてバーベキュー会場に向かいました。バーベキュー会場についてから、僕は受付に行き、予約表を渡しました。バーベキューを始めたのがだいたい十一時頃でした。会場についてしばらくしてからKさんとTさんの二人が会場の様子を写真に撮ってくれていました。二人とも楽しそうでした。

僕は職員さんと一緒に車椅子を持って、近くの駐車場に平野のメンバーを迎えに行きました。バーベキューの参加者はつるみと平野のメンバーで約四十人ぐらいでした。

Eさんや平野の女性メンバーも女性職員と一緒に野菜やお肉を切ったりしたり、他のメンバーもバーベキューの準備をしていました。

僕がいたテーブルはGさんがお肉を焼いてくれていました。隣のテーブルではM君が美味しそうにお肉を食べていました。平野から来た職員さんの中に、久しぶりに会った職員さんもありました。

平野のメンバーも楽しそうでした。バーベキューの参加者の中にはバーベキューをするのが何十年ぶりの人もいました。一番心配していたことは、と当日に雨が降らなくて良かったです。

(室橋宏一)

メンバー紹介

翔夢の施設を利用されているメンバーの方をご紹介します

満開の桜を見ながら、翔夢はなんて素敵な所なんだろう。良い所に来たなと思っただけの昨日の事に思いたされま

他にも色々あります。色々と頑張りたいです。

佐藤さんは夜中に起きて深夜番組を見る事が多いです。その為ジョイに来て居眠りする事が多く、職員の声かけで目を覚まされます。目を覚ますと恥ずかしそうな笑顔になり、そんな姿に他メンバーや職員が癒されています。「夜中にどんな番組見てるの」と聞くと、最初は大好きなプロレスを見ていた事が始

機能訓練

充実しています

山本 勝浩さん

僕は前の施設が閉鎖になり、翔夢にお世話になる様になったのは、平成二十一年四月の事でした。初めて翔夢に来た日は緊張してドキドキしていました。その日は、昼食を食べ終わると「さあお花見ですよ」との職員さんの声で長原駅より、電車に乗り桃ヶ池公園へ花見に行きました。

楽しい事がありました。特に心に残っている思い出は、クリスマスです。一昨年のクリスマスでは壇上に上がり、皆と共に一生懸命朗読をしました。興奮して前夜は眠れなかった事を覚えています。今年のクリスマスも今から楽しみにしています。楽しみと言えば、今の楽しみは週三回のお風呂です。血圧が平常値でないとお風呂には入れない為、平常値の時は職員の皆さんにもつい報告をします。「良かったですね」と言ってもらえると嬉しくなります。そんな日は機能訓練も頑張れます。今楽しんでやっている機能訓練は、平行棒を手に支えながら歩く時、職員が足を助けてくれ、それを大きく跨いで歩くと言うゲーム感覚のものであります。職員とタイミングを合わせてやる為、一体感があり充実した機能訓練が出来ています。これからも翔夢で

笑顔に

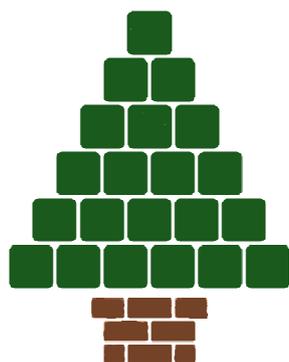
癒されます

佐藤 博典さん

私がジョイにお世話になった頃の佐藤さんのイメージは、余りしゃべらない人だなあと思っていました。しかし、送迎の補助に出るようになり、佐藤さんとコミュニケーションを取る機会が増えて来ると、色々なお話をしてくれるようになり、佐藤さんの人となりを知る事が出来ました。

まりだったとの事でした。深夜に起きずに眠る方が良い事は本人も分かっていますが、ついつい目を覚ますとテレビを付けてしまうそうです。そんな佐藤さんですが、風船バレーになると目を輝かせて手だけではなく頭や肩等を使って活発に頑張ってくれます。風船バレーは楽しいと笑顔で語ってくれ、他にも席を立たずにする運動は割と好きだと言って新しいゲームを楽しみにしてくれています。またトランプゲームの神経衰弱が得意で、最初負けていても終わって見れば一人勝ちして満面の笑顔をしています。聞く神経衰弱は好きでお家でもよくやっているとの事でした。

(文・杉山)



就労部会の取り組み報告

～ シャープ特選工業株式会社を見学して ～

当法人では今年の四月より 頂きました。特例子会社と就労部会を立ち上げました。 は、親会社が増える者が多く

「昨年「一般就労をしたい」という希望を持たれる障がいを持った方々が増えていす。当法人のメンバーさんも例外ではなく、一般就労という目標に向かって一人一人が今ある課題に取り組んでいます。その想いを大切にし、座学や企業・社会資源の見学、ディスカッションを通じてメンバーさんへの就労に向けての様々な知識の底上げや就労意欲の更なる向上を目指していくことを目的としています。

少し前の話になりますが、さる九月十五日、みなさんご存知の企業であるシャープの特例子会社であるシャープ特選工業株式会社を訪問させて

採用し働いてもらおうべく立ちあげた別会社を言います。障がい者は自分の障がいを企業に理解してもらいながら自らの役割を持ち、働けるというメリットがあるのです。 私たちは取締役である松岡恭之氏から講習を受けました。松岡氏によりまずと、シャープの創始者である早川徳次氏は盲目のおばあさんに手をひかれて奉公先に連れて行ってもらったそうで、その時の手のぬくもりが忘れられなかつたそうです。その恩返し

の気持ちから戦時下失明した軍人を雇用する取り組み等を行い「一九七七年日本初の特例子会社としてシャープ特選工業が設立された」との事

でした。

松岡先生はまた、働きたいという意欲・夢を持つ事と企業が求める人材（挨拶や返事ができることなど）についての話や支援者に対して望む事等を教えて下さいました。

松岡先生の講習の後、私は会社の見学をしました。五十九名の障がい者が働くシャープ特選工業では、社員の障害特性に応じた様々な工夫、取り組みがなされていました。例えば部品のパッキング



グについては、パッキングミスがないように物の配置にマーキングをしてあったり、車椅子の社員用に回転テーブルなどの工夫がありました。

一方では親会社であるシャープとパソコンでやり取りをしながらテレビの液晶パネルを調整したりする社員もいるのです。「障がい者には適材適所さえ配慮すれば決して普通の人の能力と変わりがない」早川氏の理念の基、障がい者が働く意欲を持って、長く働ける取り組みがなされているな、と大変感銘を受けました。見学したメンバーさんの中からは「企業で働くということは厳しい事もあるけど、これは納得できる。障がい者が働ける企業があるという事で前向きになれる」「個性が活かされるような環境が整っていて、見学してよかったです」という意見がありました。

翔夢の 相談日記

今回私たちに講習・見学の機会を与えて下さいました。シャープ特選工業株式会社、松岡さまをはじめ、社員の皆様に熱く御礼を申し上げます。誠にありがとうございます。ございました。

このように企業見学や社会資源の見学を隔月行っておりませんが、最後に初めに紹介した座学の取り組みを報告させて頂きます。

座学は社会資源の紹介や障がい者就労の現状等の講習を行ったり、ディスカッションを通してメンバーさんが互いに働きたいという想いや見学したい企業等を語りあい、理解を深めあつたりしています。私共もこの座学を通して「働きたい」という想いを持つメンバーさんの声を聞き、夢が実現できるように精一杯取り組んでいきたいと考えています。

(就労部会 佐藤巧)

新施設も出来、早一か月が過ぎました。バス通りに面している事もあり、相談数も増加の一途です。中には自販機の業者が相談電話に電話されることもあり、困ってしまうこともありますが、まだまだ平野区でも沢山の悩みを抱えている方が多いのだなどこの国に対する心配が沸き立つ日々を過ごしています。

相談内容はやはり、精神障害の問題と親亡きあとの問題です。この問題を解決するには地域が一つになって解決にあたらないと進まない状況にあります。具体的問題発信する所が少なすぎます。そしてその問題発信を受け止め、どう解決するか、検討する所がありません。親亡きあとの問題では、入所施設やグループホーム等は絶対数足り

ないし、建設しても維持管理の問題や職員の確保等尋常ではありません。またグループホームに入るまでの訓練機関も無くショートステイ事業は存在していても、いつも一杯で利用など考えられる状況ではないのです。精神障害の問題も深刻で友人や知人にも相談できないことが多く差別意識も強い為、より深刻になっていきます。精神疾患は早期発見が大切なものなかなかなので、一歩が踏み出せません。また治療以外の生活や家族の負担等も相談する所が

少ないし、建設しても維持管理の問題や職員の確保等尋常ではありません。またグループホームに入るまでの訓練機関も無くショートステイ事業は存在していても、いつも一杯で利用など考えられる状況ではないのです。精神障害の問題も深刻で友人や知人にも相談できないことが多く差別意識も強い為、より深刻になっていきます。精神疾患は早期発見が大切なものなかなかなので、一歩が踏み出せません。また治療以外の生活や家族の負担等も相談する所が

バザー物品提供のお願い

ご自宅に眠っている食器(未使用)・贈答品などがございましたら、ご提供をお願いします。

毎月、第2週・最終週にバザーを開催しています。バザーでは、食器類や小物などの販売。また自主製品のフクロウ・カメのストラップ、ミサンガの販売もしています。ぜひ、お立ち寄りください。

(06) 6760-6250 島村まで

バザーを行っている場所は

障がい者ふれあい交流センター
平野区長吉長原2-14-15
です